

2019年7月1日

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 7月えんだより

7月聖句 「まことの光が輝いているからです。」

＜ヨハネの手紙1 2章8節＞

梅雨がなかなか始まりませんね。昨年のように大雨の被害は望みませんが、雨が降らないとなると、今度は作物が育ちません。自然の営みは本当にバランスが必要だと感じます。良い天気が続いた6月は、子ども達も暑さを吹き飛ばすように朝から外で遊んでいます。4歳児（すみれ組）の子ども達は、一泊二日のお泊り保育を体験しました。いつも一緒に遊び、生活をするお友達が傍にいても、保護者の方から離れて過ごすのは、やはり寂しいものです。しかし水族館で思い切り遊び、園に帰ってきてからも遊びきった子ども達は、ぐっすりと眠り、一日を無事に過ごしました。5歳児（ゆり組）の二泊三日のキャンプもとても楽しみです。子ども達は、一回寝たら会える、待っていたら園に迎えに来てくれる、一緒にいると楽しいという信頼感や安心感の中で育つことができます。考えて見ますと、生まれてきた子ども達は、保護者の皆さんの愛情の中で生まれ、信じて、信じられる経験を何度も繰り返して、少しずつ自らの意志で動き始めます。この当然と思われる「互いに愛しあうこと」がいかに大切であるかと、繰り返し聖書の中では述べられています。

自分にとって好ましい人や必要とする人を愛するとか、家族や兄弟姉妹、友人や近しい人を信じる、愛するということは勿論のこと、神様が愛したのは、そうではなく、信仰が異なる人や罪を犯す人等、私たちが常に愛することが困難と思われる人々を愛せよということなのです。しかし、そう簡単にできることではありません。初めて出会ったばかりの人や見知らぬ人を私たちは、大切にできるでしょうか？ましてや罪を犯す人を私たちは赦せるでしょうか？正直、私は疑問や不安を感じます。

「闇は去り、まことの光が輝く」とは、人の心を超えた神の行いを仰ぎ見るところに真実があると言うのです。何が正しい行いか、そして全ての人々は、神様の前に平等に命を与えられた存在であることを感謝の心を持って受けとめなければ、真に互いに愛し合うことはできないというのです。日々目にする聖句や子ども達と共に歌う讃美歌のなかにある一つ一つの言葉を省み、不完全である私たちだからこそ、共に語り合っていきたいと思います。

年主題 『ことばに満たされて～ひびきあう～』

7月	乳児（0,1,2歳児）	幼児（3,4,5歳児）
月主題	いいきもち	やってみる
月の願い	＊夏の自然にふれ、遊びや生活を楽しむ ＊水・砂・泥の感触に親しむ	＊ 神様の創られた自然に触れ、親しむ ＊ 土・砂・水に存分に触れて、心も体も解き放って遊ぶ ＊ 健康に生活するための生活習慣を身につける
讃美歌	ちから	つきはそらから こども改98